

- 問1 戦国時代の日本において、全国統一の動きを加速させる要因となった鉄砲について、その伝来の経緯を説明したものとして正しいものはどれか。
(2016年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------------------|---|---------------------------------------|---|
| 1. 種子島に漂着したポルトガル人によって、1543年に伝えられた。 | 2. 元寇の際に、元軍が使用していた「てつほう」を日本側が改良して国産化した。 | 3. 日明貿易の進展に伴い、日本の商人が中国から直接買い付けて持ち帰った。 | 4. キリスト教の布教を目的としたスペイン人の宣教師によって、平戸で初めて紹介された。 |
|------------------------------------|---|---------------------------------------|---|
- 問2 15世紀後半に京都で始まった大規模な戦乱をきっかけに、室町幕府の権威が衰え、下の身分の者が実力で上の身分の者を倒して地位を奪うという社会的な風潮が広まりました。この風潮を漢字3文字で何といいますか。
(2020年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|---------|--------|--------|
| 1. 徳政令 | 2. 執権政治 | 3. 惣一揆 | 4. 下剋上 |
|--------|---------|--------|--------|
- 問3 1543年に種子島へ伝来した鉄砲が、戦国時代の日本において急速に普及し、合戦のあり方を大きく変えた主な要因として正しいものはどれですか。
(2020年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------------------------|---|--|--|
| 1. 室町幕府が鉄砲の製造を独占し、全国の大名に無償で配布したため | 2. キリスト教の布教を許可した大名に対してのみ、スペインが鉄砲を贈呈したため | 3. 堺や国友などの都市の職人が高い技術を用いて、鉄砲の国内生産を可能にしたため | 4. ポルトガル人から輸入するのみで、国内の需要をすべてまかなうことができたため |
|-----------------------------------|---|--|--|
- 問4 16世紀半ば、フランシスコ・ザビエルらイエズス会の宣教師が日本を含むアジアなど世界各地へ布教に赴いた歴史的な背景として、最も適切なものはどれですか。
(2017年 京都府公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 1. ヨーロッパで始まった宗教改革に対し、カトリック教会が勢力を立て直そうとしたため | 2. マルコ・ポーロが『世界の記述（東方見聞録）』で日本を黄金の国と紹介したため | 3. 十字軍の遠征が失敗し、キリスト教徒が住む場所をアジアに求めたため | 4. 産業革命によって生産された工業製品を販売する市場を求めていたため |
|--|--|-------------------------------------|-------------------------------------|
- 問5 戦国大名の武田晴信（信玄）が定めた「甲州法度之次第」のように、大名が独自に法を定めた背景を説明した次の文の（ ）に当てはまる語句を答えなさい。「戦国大名は、幕府の法が及ばなくなった自分の（ ）において、家臣の勝手な婚姻を制限したり、領民を管理したりすることで支配を強化しようとした。」
(2023年 山口県公立入試 類似)
- | | | | |
|------|-------|-------|-------|
| 1. 藩 | 2. 荘園 | 3. 幕領 | 4. 領国 |
|------|-------|-------|-------|
- 問6 戦国大名が「分国法」を制定した主な背景と目的について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。
(2016年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 朝廷から与えられた守護としての特権を誇示し、伝統的な荘園領主の権利を保護するため。 | 2. 領内の武士や農民の行動を統制し、領国を一つのまとまった組織として安定させ、他勢力との戦いに備えるため。 | 3. 海外との貿易を独占し、キリスト教の布教を認めることで南蛮文化を取り入れるため。 | 4. 将軍の命令を全国に徹底させ、守護大名の権限を制限することで幕府の権威を取り戻すため。 |
|--|--|--|---|
- 問7 戦国大名の朝倉氏が定めた法には、家臣が各自の領地で勝手に城を構えることを禁じ、大名の本拠地に住まわせる方針が示されています。このように、大名が家臣を自らの膝元に集住させた目的として、当時の社会背景を踏まえた説明として最も適切なものはどれですか。
(2023年 広島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--------------------------------------|---|
| 1. 家臣を各地の拠点に分散して配置することで、領土の境界線の防衛を固めるため | 2. 家臣と土地の結びつきを弱めて反乱を防ぎ、軍事・政治的な統制を強化するため | 3. 海外から伝来した鉄砲やキリスト教が、地方の家臣に広まるのを防ぐため | 4. 家臣を農村に定住させることで、戦時以外は農業に専念させて食料生産を増やすため |
|---|---|--------------------------------------|---|
- 問8 1549年に鹿児島へ上陸し、日本に初めてキリスト教を伝えたイエズス会の宣教師は誰か。
(2017年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------|----------------|------------|------------|
| 1. ルイス＝フロイス | 2. フランシスコ＝ザビエル | 3. マテオ＝リッチ | 4. ヴァリニャーノ |
|-------------|----------------|------------|------------|
- 問9 1543年に種子島へ鉄砲が伝来したことは、その後の戦国時代の戦い方や社会にどのような変化をもたらしましたか。最も適切な説明を選んでください。
(2024年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 足軽による集団戦法が普及し、強力な攻撃を防ぐために城の造りがより堅固になった | 2. 弓矢や刀剣が全く使われなくなり、すべての兵士が鉄砲のみを装備して戦うようになった | 3. 騎馬武者による一騎打ちが戦いの主流となり、個人の武勇がより重視されるようになった | 4. 鉄砲の製造に高度な技術が必要だったため、戦国大名同士の争いが一時的に停止した |
|---|---|---|---|
- 問10 室町幕府が最終的に滅亡を迎えた過程について、1573年に行われた出来事として正しい説明はどれですか。
(2018年 静岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------------|--------------------------------------|--|-------------------------------------|
| 1. 織田信長が、鉄砲を組織的に用いて長篠の戦いで武田勝頼の軍勢を破った | 2. 織田信長が、対立を深めていた15代将軍の足利義昭を京都から追放した | 3. 織田信長が、布教活動を行っていたフランシスコ・ザビエルにキリスト教の保護を約束した | 4. 織田信長が、比叡山延暦寺を焼き討ちして宗教勢力の軍事力を排除した |
|--------------------------------------|--------------------------------------|--|-------------------------------------|
- 問11 ルターが始めた宗教改革において、彼はキリスト教徒が信仰の根拠として最も重視すべきものは何であると主張しましたか。
(2018年 福島県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------|-------|-------------|-------------|
| 1. 免罪符（贖宥状） | 2. 聖書 | 3. ローマ教皇の命令 | 4. 教会が定めた儀式 |
|-------------|-------|-------------|-------------|
- 問12 戦国大名が定めた「分国法」に見られる特徴や目的を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。
(2024年 岡山県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 天皇や公家の行動を厳しく制限し、政治に関与させないようにした | 2. 江戸幕府が諸大名を統制し、勝手に城を修理することを禁じようとした | 3. 鎌倉幕府が御家人たちの土地争いを公平に解決するために制定した | 4. 領国内での私的な争いを禁止し、大名による裁判権を確立しようとした |
|-----------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|-------------------------------------|
- 問13 大航海時代において、ポルトガルの航海者バスコ＝ダ＝ガマがインド航路の開拓に成功したことが、その後のヨーロッパ諸国に与えた影響として最も適切な説明はどれですか。
(2018年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---------------------------------------|------------------------------------|--|
| 1. 大西洋を西に進む航路が否定され、すべての探検家がアフリカ経由を目指すようになった | 2. アメリカ大陸への植民地支配が終了し、交易の拠点がすべてアジアへ移った | 3. 宗教改革が始まり、キリスト教の布教を目的とした航海が中止された | 4. 香辛料の直接取引が可能になり、それまで地中海貿易で栄えていた都市が衰退した |
|---|---------------------------------------|------------------------------------|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 種子島に漂着したポルトガル人によって、1543年に伝えられた。	鉄砲は1543年、鹿児島県の種子島に漂着したポルトガル人によって伝えられました。当時の島主であった種子島時堯がこれを買取り、刀鍛冶に命じて国産化を試みたことが、その後の日本国内での普及につながりました。モンゴル襲来時に使用された「てつほう」は火薬を用いた投擲武器であり、火縄銃とは構造が異なります。
問2	答え 4 下剋上	応仁の乱によって幕府の統制力が弱まると、身分秩序が崩れ、実力主義の社会へと変化しました。「下の者が上の者をしのぐ」という意味のこの言葉は、室町時代後半から戦国時代を象徴するキーワードとなりました。
問3	答え 3 堺や国友などの都市の職人が高い技術を用いて、鉄砲の国内生産を可能にしたため	種子島に伝来した鉄砲は、当時の優れた鍛冶技術を持っていた堺（大阪府）や国友（滋賀県）の職人たちの手によって、すぐに構造が研究され「国内生産」が行われるようになりました。これにより、高価な輸入品に頼ることなく大量の鉄砲を確保することが可能になり、戦国大名の間に広く普及しました。輸入のみに依存していたとする説は、当時の広範な普及の実態とは異なります。
問4	答え 1 ヨーロッパで始まった宗教改革に対し、カトリック教会が勢力を立て直そうとしたため	ルターやカルバンによる宗教改革によって、ヨーロッパ内でのカトリック教会の権威が揺らぎました。これに対抗するため、カトリック側は自己改革を行うとともに、イエズス会などの組織を通じて世界各地にキリスト教を広め、教勢を回復しようとする「対抗宗教改革」の動きを強めました。ザビエルの来日もこの一環として位置づけられます。
問5	答え 4 領国	戦国大名が直接支配を及ぼした範囲は「領国」と呼ばれます。江戸時代の「藩」や、中世の貴族・寺社の土地である「荘園」とは区別されます。分国法は、この領国内でのルールを明確にすることで、大名の権威を確立し、富国強兵を進めるための重要な手段でした。
問6	答え 2 領内の武士や農民の行動を統制し、領国を一つのまとまった組織として安定させ、他勢力との戦いに備えるため。	戦国大名は隣接する他の勢力と常に戦う状況にあり、領国内での内紛は命取りとなりました。そのため、武士たちの勝手な婚姻を禁止したり、農民が年貢を納める義務を明確にしたりすることで、領地全体を強力に統率し、富国強兵を図る狙いがありました。
問7	答え 2 家臣と土地の結びつきを弱めて反乱を防ぎ、軍事・政治的な統制を強化するため	戦国大名にとって、有力な家臣が自分の領地で独自の勢力を持つことは、裏切りや反乱のリスクを伴いました。そこで、家臣を城下町に強制的に住ませることで、家臣と領地の直接的なつながりを切り離し、大名の監視下に置きました。これにより、大名は軍事力を本拠地に集中させ、より強力な統治体制（大名領国制）を築くことが可能になりました。
問8	答え 2 フランシスコ＝ザビエル	スペイン出身でイエズス会の創立会員の一人です。インドのゴアで出会った日本人アンジロウ（ヤジロウ）の案内で来日しました。その後、平戸や山口、豊後（大分）などで布教活動を行いました。ルイス＝フロイスは後に来日し『日本史』を記した人物、ヴァリニャーノは天正遣欧少年使節の派遣を勧めた人物であり、活動時期や内容が異なります。
問9	答え 1 足軽による集団戦法が普及し、強力な攻撃を防ぐために城の造りがより堅固になった	鉄砲の伝来と普及は、戦国時代の合戦のあり方を根本から変えました。それまでの騎馬武者中心の戦いから、鉄砲を装備した足軽による組織的な集団戦法へと移行しました。また、鉄砲の威力に対抗するために、石垣を高く積み上げ、厚い壁を持つ堅固な城郭が築かれるようになるなど、建築技術にも大きな影響を与えました。
問10	答え 2 織田信長が、対立を深めていた15代将軍の足利義昭を京都から追放した	織田信長は当初、足利義昭を擁立して京都に上洛しましたが、後に自らの政策を制限しようとする義昭と激しく対立しました。1573年、信長は義昭を京都から追放し、これにより200年以上続いた室町幕府は実質的に滅亡しました。鉄砲の伝来やキリスト教の布教開始はそれ以前の出来事であり、幕府滅亡の直接的な政治的要因は信長と将軍の対立にあります。
問11	答え 2 聖書	ルターは、教会の権威や儀式、ローマ教皇の命令よりも、神の言葉が記された「聖書」こそが信仰の唯一のよりどころであると主張しました。彼はラテン語で書かれていた聖書をドイツ語に翻訳し、一般の人々が直接聖書の内容を理解できるように努めました。これは、教会の形式的な教えから脱却しようとする背景から生まれた考え方です。
問12	答え 4 領国内での私的な争いを禁止し、大名による裁判権を確立しようとした	戦国大名は領国の軍事力を維持するため、家臣同士が私的な理由で喧嘩や抗争をすることを強く禁じました。代表的な規定に、理由を問わず争った両者を処罰する「喧嘩両成敗」があります。これにより、大名が絶対的な裁判権を持つことで領国支配を安定させる狙いがありました。他の選択肢は、武家諸法度（江戸時代）、御成敗式目（鎌倉時代）、禁中並公家諸法度（江戸時代）の説明です。
問13	答え 4 香辛料の直接取引が可能になり、それまで地中海貿易で栄えていた都市が衰退した	インド航路の発見により、貿易の主役が地中海から大西洋に面した国々へと移りました。これにより、ベネチアなどのイタリア諸都市が行っていた、イスラム勢力を仲介とする従来の貿易ルートは大きな打撃を受けました。